

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標		取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>確かな知識と活用する力を育てる教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>魅力と特色ある美術科の教育課程を確立する。</p> <p>自己有用感を育む学校行事や生徒会行事等の充実を図る。</p>	<p><u>授業改善の取組により授業の「質の充実」を目指し、時間数の確保により「量の充実」を図る。基礎学力の充実に向けた授業改善に取り組む。</u></p> <p>「身に付けさせたい力」を育むため平成30年度入学生教育課程の展開を図る。美術科教育課程の充実を図ると共に普通科との併置のよさをいかす教育課程を展開する。</p> <p>スポーツ大会や楓祭、球技大会等の学校行事や部活動において生徒の自発的な活動を支援し生徒が協調性を学び満足感を感じることができるよう努める。ボランティア活動を通じて、生徒が充実した学校生活を過ごせる機会を地域の活動の中で増やす。図書館の利用を高める。耐震化工事により使用可能施設が限られる条件での学校行事等の円滑な実施に努める。</p>	<p>教科・科目横断的な内容を盛り込んだ指導計画に基づき、幅広い基礎知識の定着と知識を活用する力を育てるため「主体的・対話的で深い学び」を意識した研究授業を組織的、計画的に実施する。「基礎学力の定着」と「応用力の伸長」を目的とした補習・講習を計画し、積極的な参加を促す。</p> <p>1年生選択科目説明会において各類型の特徴をよく理解させ、個々の進路に適した選択を促す。</p> <p>耐震化工事、仮設校舎への移転による環境の変化に合わせ、校内ギャラリー化を推進する。</p> <p>育みたい資質・能力を意識した美術科のカリキュラム・マネジメント、普通科美術科目の充実に努める。</p> <p>生徒会本部生徒の発想をくみ取りながら適切な助言や支援をすることで行事の企画運営を円滑にする。</p> <p>行事アンケート等により生徒のニーズを分析して生徒の要求と合致しているかを把握する。</p> <p>グループと学年が協力し、修学旅行の資料作り、情報提供、業者選定など計画的に行う。</p> <p>長期休業中における近隣でのボランティア活動を紹介し委員会生徒を中心に自発的な参加を促す。</p> <p>図書館と教科との連絡を密にし、教科指導に必要な書籍を整備し、生徒が活字に親しむ機会を増やす。</p> <p>購入図書に係る図書館の広報活動を強化する。</p>	<p>幅広い基礎知識の定着と知識を活用する力を育てるための「主体的・対話的で深い学び」を意識した研究授業を、組織的、計画的に実施できたか。</p> <p>(研究授業回数・授業見学回数・授業評価結果)</p> <p>基礎学力の定着と応用力の伸長を目的とした補習・講習に生徒が積極的に参加したか。</p> <p>(講座数と参加生徒数)</p> <p>1年生が個々の進路に適した科目選択を行ったか。</p> <p>校内のギャラリー化を推進できたか。</p> <p>(展示作品点数)</p> <p>育みたい資質・能力を意識した美術科のカリキュラム・マネジメントと普通科の美術科目の充実に取り組めたか。</p> <p>学校行事への参加率、満足感、達成感の割合はどうであったか。</p> <p>生徒会本部役員は一年間の活動を通じて、やりがいや達成感を感じることができたか。</p> <p>修学旅行の計画、業者選定に際し、グループと学年団が協働して取り組めたか。</p> <p>ボランティア活動を通じて、生徒が充実した学校生活を過ごせる機会を地域の活動の中で増やすことができたか。(ボランティア活動への参加生徒数)</p> <p>図書館の利用状況(利用生徒数)</p>	
2 生徒指導 ・支援	<p>自己管理能力を育てるルール・マナー指導に取り組む。</p> <p>生徒一人ひとりの課題を支援する教育相談体制等の充実を図る。</p> <p>協調性や主体性を育てる部活動の活性化を推進する。</p>	<p>全ての生徒が自他ともに尊重し、充実した高校生活を送ることができる安全安心な学校づくりを推進する。</p> <p><u>ルール、マナーを守り、仲間と協働して目標に向かおうとする自己管理能力を育てる指導を行う。</u></p> <p>生徒一人ひとりのニーズに合わせた教育相談を実践し、組織的な生徒支援体制のより一層の充実を図る。</p> <p><u>健康教育として「未病」学習を推進する。</u></p> <p>部活動への関心を高め、加入率の向上と活性化を図る。</p>	<p>生徒とのコミュニケーションの充実、挨拶の励行により問題行動の未然防止につなげる。また、問題行動発生時には迅速かつ適切な指導を行う。</p> <p>ルール・マナーを守る意識の醸成と問題行動の未然防止のために次の指導に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内巡回による盗難防止、及び問題行動の未然防止 いじめ防止マニュアルに基づく取組やアンケート調査によるいじめの未然防止 服装、頭髪指導の徹底による授業マナーの向上 バス乗車指導、校外指導等によるマナー教育の徹底 授業中の携帯電話指導の徹底によるマナー教育向上 <p>薬物乱用防止講演会、携帯電話教室等の講演会に加え、HR活動や集会を利用して「白山高校ソーシャルメディアポリシー」に基づいたSNS等の適切な利用方法を指導する。</p> <p>生徒の安全に関わる校内外の情報を遅滞なく生徒に提供する。</p> <p>地域からの意見には丁寧に対応し、地域との共同体制を確立する。</p> <p>多角的な生徒情報の収集を促進するとともに、情報共有の効果的な方法を工夫する。</p> <p>教育相談コア会議によって生徒の抱える問題の把握に努め、必要に応じてケース会議の開催、支援シートの活用、外部専門機関との連携を行う。</p> <p>校内研修会を通して、職員の教育相談等に関する理解を深める。</p> <p>生徒や保護者向け未病学習講演会を実施し、各科目では内容を未病の視点でとらえ、授業づくりする。</p> <p>部活動への手厚い指導や勧誘活動、広報活動の強化によって、生徒の目を部活に向けさせ、部活動加入率の向上に努める。</p>	<p>問題行動の減少と軽微化が図れたか。また、問題行動への対応は適切であり個別指導の成果が上がったか。(特別指導の件数)</p> <p>各種の指導の成果が上がったか。</p> <p>(盗難の件数・いじめの認知件数・再登校指導件数・乗車マナーの苦情件数・携帯電話預かり件数等)</p> <p>生徒の規範意識は向上したか。(講演会のアンケート結果、SNS関係のトラブル件数等)</p> <p>地域からの苦情が減少し地域からの信頼が得られたか。(苦情の件数)</p> <p>中学校との連携を深め、入学後の生徒支援に有効活用することができたか。</p> <p>(中学校との情報交換の回数)</p> <p>職員が生徒情報を共有し、効果的な生徒支援を行うことができたか。(コア会議、ケース会議回数)</p> <p>問題を抱える生徒一人ひとりのニーズに応じた支援が行えたか。</p> <p>教育相談等に対する理解を実際の生徒支援に活用することができたか。</p> <p>生徒が主体的に委員会活動に取り組み、その活性化が図れたか。</p> <p>健康診断、保健室来室者への対応を適切に行えたか。</p> <p>また、必要に応じて教育相談担当との連携が十分に行えたか。</p> <p>生徒が未病学習に関心をもち、その成果が上がったか。(講習会や授業での活用の日数)</p> <p>部活動への加入率や満足度はどのようであったか。(生徒アンケート、意識調査)</p>	

視点	3年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
3 進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己実現を支援する進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等を有効に活用し、発達や段階に応じた生徒のキャリア発達支援教育の充実を図る。 生徒の主体的な活動を促したり、外部資源を活用したりする等、様々な体験活動やチャレンジの機会を設けると共に新たな取組を模索する。自己有用感の発達を促し、社会を構成する一員として様々な職業に目を向けさせる。 ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実により、進路実現に向けた前向きな態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の内容等について、PDCAサイクルにより常に目の前の生徒に合うよう、アップデートしていく。 進路適性テストを活用し、自己の能力・適性等の理解を深める。 インターンシップ等の体験活動を有効活用する。 分野別職業体験、進路分野別説明会等のキャリアガイダンスや、進路相談を充実させ、主体的な進路選択を促進する。 上級学校への進学や就職に向け、模擬面接や論文指導等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の授業評価や進路選択が円滑に行えたか。 自己の能力・適性等を理解させることができたか。 インターンシップ等の体験活動に積極的に参加させることができたか。(インターンシップ参加生徒数) キャリアガイダンスを充実させ、生徒の主体的な進路選択を促進することができたか。 上級学校への進学や就職に向け、適切な面接指導や論文指導を行うことができたか。(進路希望者の実績数)
4 地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域等との連携に努め地域と共にある学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育計画、ミッション達成のための各種事業の運営・実施に尽力する。本校の教育活動・内容に関する的確な情報発信により、中学校との連携を図り、地域社会との連携に努める。また、PTAや同窓会との連携を図り、より質の高い教育活動への条件整備を行う。 コミュニティスクール開設のための準備段階としてワーキンググループを機能させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 穴窯焼成や展覧会、古美術研修等の行事や授業を通して新学科運営の充実を図る。 学校説明会、授業参観、授業・部活動体験、「学校へ行こう週間」の綿密な立案、スムーズな運営を通して教育活動の情報発信により学校広報する。 HP、携帯連絡網サービスを効果的に活用し、より積極的に広範囲にタイムリーな情報を発信する。 PTA、各種委員会の活動を支援し、保護者との連携を深めることで、よりよい学習環境を整える。 同窓会活動の一環としてOBとの連絡を密にし、文化祭等を利用し同窓生との交流を図る。 学校運営協議会の組織作りを計画しコミュニティスクールワーキンググループを開催・運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事や授業の計画、立案、実施を通して学科運営の充実が図れたか。また職員が協働的に業務遂行できたか。 各種説明会を通して中学生やその保護者の興味を引出し、地域社会の理解を得られる運営ができたか。(学校説明会の参加人数と回数・アンケート結果) HPを通して、正確でタイムリーな情報を発信できたか。また、携帯連絡網サービスを効果的に活用できたか。(HPの更新回数) PTAの各委員会の活動を支援し、PTA活動全般を活性化することができたか。 同窓会との連絡を密にし協力体制を推進できたか。 平成31年度コミュニティスクール発足に向け、適切にワーキンググループの運営が出来たか。
5 学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な学校運営と教育環境の整備に取り組み、学校教育力の一層の向上を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の徹底、美化意識を啓発することにより学習環境の充実を図る。 防災における地域連携を推進し、学校防災マニュアルを整備する。 各式典の円滑な運営を目指す。 財務事務の適正処理を目指す。 情報セキュリティを推進し、ネットワーク環境の適正な運用と有効な活用に努める。 耐震化工事に伴う教室配置や移転に見通しを持ち、円滑な実施を目指す。 事故不祥事を根絶する。生徒、保護者、地元を含む県民から「信頼される学校」であり続けるため、事故のない「風通しの良い職場づくり」を目指して業務改善する。また、人権意識の向上を図ることで事故不祥事防止に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会と連携し、清掃の徹底、生徒の美化意識を高める工夫を行う等、学習環境整備に努める。 「避難所初動対応マニュアル」を作成する。 防災や美化の地域連携を生徒参加型で進める。 式典の計画段階から見直しを行い、実施後のアンケートを次回実施時にも活かす。 美術科初度調弁を作成する。 会計マニュアルに沿い、会計業務を適正に行う。 適正なネットワーク管理と校務及び授業へのICTの利活用に努める。 仮設校舎移転に際し、業務の継続性を踏まえた移転計画と実施に向けた関係部署との連絡調整を図る。 教員一人ひとりが不祥事根絶に向け、適正な業務遂行を図る。 人権研修会などの研修の内容を吟味し、より有益な研修を行うことで意識の啓発を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動を徹底し校内の美化が促進され、学習環境の充実が図れたか。 防災訓練、研修会等が有効に行われ、意識啓発に繋がったか。(地域防災訓練への参加数) 各式典が滞りなく行われたか。(アンケート結果) 会計処理が適正に行われたか。 ネットワークは適正に管理されたか、業務や授業へのICT活用がなされたか。(ICT活用状況調査) 業務の継続性を踏まえた情報提供や移転スケジュールの作成・実施が出来たか。 定期試験や成績処理等、事故なく業務遂行できたか。(定期試験の共通化の割合) 業務の適正な遂行により不祥事を根絶し、事故ゼロを達成できたか。 人権意識や事故防止の意識が高まったか。(事故防止会議の回数・校内研修の回数)

* アンダーライン部が重点項目